opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 - 42

内戦でスペインの教会は甚大な被害を受けましが、戦後に 凄まじい勢いで再生します。 聖ホセマリアは数多くの黙想 会の指導を引き受けます。

2024/04/03

過去の記事はこちらから

内戦のために、最初のオプス・デイ のセンターだったフェラス通りの学 生寮は破壊され使えなくなりまし た。一日も早く学生寮を再開したい と願っていた神父は、再びお金の問題に頭を痛めながら、なんとかパードのヘンネル通りのアパートに新しい部屋を見つけ、1939年7月に引っ越しした。善意かけを借りて、を夏をかけるのなりとない。新学年が近づくのを見ました。新学年が近づくのを見るの申し込みが殺到するのを見るのかの階にいくらかの階にいくられました。

のために、聖ホセマリアを説教師と して招こうとしたのです。

教会のために働くことを喜びとし、 また司祭の養成が教会にどれほども 要なものかを理解していた聖ホセを リアは、これらの依頼をできるとし、 できるとので説教をし、またより 受け、心を込めて説教をし、話すより をとりと個人的に話すら1942年 の末まで司祭のための7日間の黙想 の末まで司祭のための7日間の黙想 会を20回しています。参加者の保存 は、神父の説教のメモを大切に保存 した人もいて、そのおかげで神父の 話の概要がわかります。

このほか、修道者や信徒の黙想会の 指導も引き受け、またオプス・デイ の精神に惹かれた人たちに対しても 黙想会を開きました。一方、新しい 学生寮にも大勢の学生が勉強をした り聖ホセマリアから霊的指導を受け たりするために来るようになりまし た。その結果、オプス・デイのメン バーになる若者も増え、彼らの養成 も重要な仕事になりました。再び休 む暇もない忙しい毎日が始まったの です。

黙想会の指導のため頻繁にスペイン 各地に出向いて行った結果、過労か ら来る疲れや病気だけでなく、オプ ス・デイの統治の仕事に手が回らな いという問題も出てきました。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-42/ (2025/11/20)